

「神殿の垂れ幕が・・・」

ルカによる福音書 23 章

44 既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。

45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。

46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。

47 百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。

48 見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。

49 イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちは遠くに立って、これらのことを見ていた。

* * * * *

イエス様の十字架の場面が淡々と描かれています。

45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた

12 時から 3 時まで全地が真っ暗になったと記録されていますが、それはこの世界の暗黒が明らかにされている感じです。

この暗闇の中で裁きが執行されたことの象徴のように感じます。そして、その中に希望が表明されています。

45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた

「神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた」とありますが

この神殿の垂れ幕は大祭司と他の人々を隔てるものです。

神殿の奥に入れるのは大祭司だけでした。

特別な役割を果たすべき大祭司だけが入れる場だったものが人々の前にオープンにされました。

もはや、そこは「閉鎖」された場ではなく「誰にでも入れる場所」

になったのです。神の赦しも神への願いも自由に表明できる場となったのです。

誰か特別な役職の人に頼まなくても、神の前に立つことができ赦しを求め、願いを祈ることが可能になったのです。

それはイエス様の十字架がすべてのできごとについて「とりなし」をしてくださったからです。

わたしの霊を

イエス様はご自分の使命について「⁴²父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」と祈りましたが十字架でそれを達成し、父なる神様に向かってこう叫ばれました。

「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」
こう言って息を引き取られた。

神様の御心をすべて実行し、それゆえに安心して

「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」
と祈ったのです。

使命果たし、いのちが終わろうとしているとき、大満足のうちに「神様の御手に委ねる」ことができたのです。

イエス様が生まれる前、この子の名前は意味深いものでした。

マタイによる福音書 1 章

た。

20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。

21 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

イエス様は生まれた時から、神様からの使命を託されていたのです。
そして、そのすべてを成し遂げたのです。

人からの評価の不確実性

47 百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言
って、神を賛美した。

48 見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰
って行った。

その十字架の一部始終は人々の心を捉えました。

イエス様が本当のところ誰なのか、何を成し遂げたのか、人々には
わからなかったと思います。

でも、十字架にかけられたイエス様の存在といのち、その姿は人々に感動
をもたらしました。

それにしても「胸を打ちながら帰っていった群衆」も「本当に、この人は正し
い人だった」と神を賛美した 100 人隊長も考えようによっては
本当に「無責任極まりない」ですよ。

つい先程まで、口から泡を飛ばしてイエス様に対して「十字架につけろ！」と
罵声をあげていたわけですから……。

人の評価は本当にあてになりません。昨日のヒーローが今日のバッシング
対象者になることなど日常茶飯事であり、最近まで大騒ぎしていたウクライ
ナとロシアの戦争についての論評はいまやすっかり影をひそめ、パレスチナ
とイスラエルの戦争のことばかりが報道されています。

心が痛み、心が折れそうです。

静かに見守る集団

ここに静かに全体を見守っている目撃者が静かに描かれています。

49 イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たち
とは遠くに立って、これらのことを見ていた。

イエス様を知っている人たち、婦人たちは、これらの罵声の中には加わら
ず、しずかに目撃者としてそこに立つ姿勢は実はとても大切です。

冷静な目撃者として聖書の言葉に向かい合うこと。

イエス様の両脇につけられて処刑された犯罪人の心、大声で十字架につけろと叫び、わめき、それをむりやり実行する群衆と宗教家たち、そしてイエス様を直接的に鞭打ち、釘を打ち込み十字架につけた上で「本当に、この人は正しい人だった」と語るローマの兵士、それらの人たちの心は私たちの心の近いところにあります。私たちは、彼らを簡単には軽蔑できません。似た心を持っている存在だからです。

それだからこそ「神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。」ことの意味は大きいのです。それらのすべての人を赦すための場が開かれたからです。

しかし、私たちはどこかで心静かに見守る場を確保する必要があるように思います。それは、個人個人の聖所。一人で静まる習慣。ひとりで静かに思い巡らす時間の確保。その中に、きっと神様の声は明快に聞こえてくるのかもしれない

振り回されず、極端に一方に加担せず、静かに思い巡らす姿勢は今、本当に必要だと感じます

* * * * *

MACF 礼拝映像はこちらです

https://youtu.be/Ya5u_JOKdp0